

小樽市立長橋小学校だより

令和6年10月28日発行 No. 8

【重点教育目標】

いきいきと学び 未来を創る
長橋の子



ながはし

<学校教育目標> かしこく なかよく たくましく



長橋小HP

『読書』のすすめ

校長 及 川 年 彦

冷えた空気が心地よい季節「秋」となりました。「秋」の文字が入ったことわざや慣用句は、他の季節よりも多くあると言われています。「秋の日は釣瓶落とし」「天高く馬肥ゆる秋」「一日千秋」「千秋楽」「春秋の筆法」等がそうです。また、この季節は物事に集中して取り組むことに適した時期で「芸術の秋」「スポーツの秋」「読書の秋」など様々な秋の取組があります。その中にある「読書の秋」は、古代中国唐の時代、詩人である韓愈（かんゆ）の作品にある「燈火親しむべし」という一節が由来といわれています。秋になると涼しさが気持ちよく感じられ、秋の夜長はあかり（燈火）をつけて本を読むのに一年で一番適した季節であるという意味です。

さて、前期保護者・児童アンケート結果で『読書』は本校の課題であるとお伝えしましたが、文化庁で毎年行っている16歳以上を対象とした「国語世論調査」では、**令和5（2023）年度「1ヶ月に全く本を読まない」割合が62.6%**、16年前の平成20（2008）年度の46.1%より**16.5ポイントも増加し、過去最多**となっています。その要因としては、「スマートフォンなどの情報機器の使用に時間をとられている」という回答が最も多かったそうです。「読書離れ」は本校だけの問題ではなく、日本全体の問題といえます。

実は、今からさらに23年前の平成13（2001）年、国ではすでに子どもの読書離れに対する懸念を背景として「**子どもの読書活動の推進に関する法律**」を公布・施行しています。その法律では、「**子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの**」と基本理念を掲げています。

『読書』は人から勧められてすぐにできるようになるわけではありません。小さな頃から習慣として自分から読めるようにすることが望ましいそうです。そのためには、読書環境が大切であり、身の回りに本があり、読書をする人がいること、その機会があることなどがポイントとなります。

本校では、「朝読書」や図書館司書による「読書環境（図書館）の整備」など、読書活動の充実を図っています。特に朝読書の時間は、写真にあるように先生方も子どもたちと一緒に静かに本を読んでいます。

ご家庭でもお子さんの読書意欲を高めるため、例えば読み聞かせをしたり、親子読書（同じ時間に同じ場所で読書をする）をしたり、市立小樽図書館へ連れて行ったなど、『読書』の機会をつくる工夫をしてみてください。

『読書』は子どもたちだけのものではありません。忙しい毎日の中で、ちょっとした時間をつくり、お子さんと一緒に『読書の秋』を楽しんでみませんか。



学芸会テーマ「1人1人が主人公だ！学芸会」

開校101年目を迎える本校の学芸会（地域公開日）が、10月19日（土）に行われました。上記のテーマのもと、どの学年も日常の学習の成果を発展させ、よりよい表現を目指して取り組んできました。当日は、保護者・地域の皆様から、たくさんの温かいご声援や拍手をいただき、その取組の成果を十分発表することができました。今後も、保護者・地域の皆様と連携を図り、教育活動を推進していきたいと思ひます。



「小樽こどもの詩コンクール」より

今年で第10回目を迎えた同コンクール。市内の小中学校より寄せられた4781の作品から、本校児童の作品が以下の通り入賞しました。おめでとうございます！

- 小学校低学年の部 銀賞 2年〇組 〇〇 〇〇さん
「か さ」
- 同上 優良賞 2年〇組 〇〇 〇〇さん
「こわいおるすばん」
- 小学校中学年の部 優良賞 4年〇組 〇〇 〇〇さん
「文 句」



※作品は学校HPをご覧ください。

「生活リズムチェックシート」より

日頃の生活を見直し、さらに良い生活習慣を確立していくため、全校児童が1週間生活リズムチェックに取り組みました。本校児童の傾向として以下のような結果がみられました。

- 「学年×10+10分」の家庭学習時間は、1学期の児童アンケート結果よりも頑張りが見られましたが、引き続き学年に応じた内容や時間を意識した取組が必要です。
- ゲームやスマホ、YouTubeなどのスクリーンタイムの目安（おたる「スマート7」1日1時間以内）より、どの学年も長く、時間の使い方の改善が必要です。
- およそ80%の児童が読書をしないという学年もあるなど、依然として「読書」は課題です。巻頭言にあるように学校と家庭が連携し、読書に親しむ環境づくりが必要です。